

令和5年度まちづくり座談会【報告】

※内容については、要約させていただいております。

通番	質問内容	回答
1	まちづくり座談会がどんなものか、来ないと内容が分からないので、広報で周知してもらいたい。	懇談会の内容周知は、広報誌・ホームページを利用して今後、周知して参ります。
2	旧アイモアの施設について、廃墟化しており景観が良くないと感じている。この場所は、観光地のメイン通りであると思われる。再利用される計画などはあるのか伺いたい。	現在の旧アイモアの施設については、民間業者が活用していると伺っております。所有されている企業様などを訪問させていただき、景観や良好な市街地の形成を図る観点からも土地の利活用に関するご意向などを伺って参ります。
3	市民が要望やトラブルに関する現場写真などの情報を、市の担当へ直接送信できるようにすることで、迅速な対応がしてもらえないか。	今年度からDX戦略室を設置し、HPやメルマガ等の有効活用について調査・研究をしておりますが、画像等については、外部からのアクセス制限があるため、迅速な対応は難しいのが現状です。今後、研究してまいります。
4	日本一の水路事業のハード面について、補助金がでないために事業を見送るとのことだが、予算は計上されているのではないか。ぜひ、やっていただきたい。	国の補助金の申請上、市の予算確保が必要となります。よって、予算は組んでおかなければなりません。採択にならなかった場合は、事業を翌年度に持ち越すか、他の補助金を探す方針となります。事業を継続的に実施できるように職員一同努めて参ります。
5	前回の座談会で、地域バスの経路を変えることはできないかと質問をした際、回答はアンケートでデータを集めて進めるとのことだった。その後の進捗について伺う。	地域の路線バスは2ルート運行しております。潮来市地域公共交通活性化協議会（筑波大学教授や有識者、市民等で構成）を6月に開催しております。アンケート調査につきましては、11月頃に行い、年内には集計を開始し、結果を踏まえて、効率的な皆様方の利用しやすいルートなど、協議をして参ります。
6	水郷潮来バスターミナルから羽田空港への直通のバスがなくなってしまった。もっと利便性を考えてほしい。	羽田空港への直通バスについては、2020年9月1日から当面の間全便運休となっております。コロナ禍で需要がかなり減ってしまいましたが、徐々に利用者数が戻ってきております。いただいたご要望は関係機関に伝えて参ります。
7	旧牛堀出張所跡地の基本計画の策定を進めているとの事であるが、市立図書館の出入口について、旧牛堀第一小の校門から出入りができたら安全性、利便性が良くなると思う。	現在基本計画を策定中です。いただいたご意見は検討材料にさせていただきます。より良い形にできますよう取り組んで参ります。
8	人口減少と共に、空き家が増えている。空き家が多い状況では「この街に住んでみたい」とはなかなか思わない。空き家対策・利活用について、市の考えを聞きたい。	今年の4月から、地域おこし協力隊として1名、空き家の利活用をミッションとした隊員が活動を開始しております。また、どれだけの空き家があるかは、調査をして把握しておりますので、老朽化して危険な空き家は所有者に伝えて対処する様にします。なお、緊急性のある場合は法的措置を執って参ります。
9	ふるさと納税について、潮来市の住民税控除の額はいくらか。	令和5年度の潮来市の住民税控除額（潮来市から出ていくお金）は約3,200万円です。
10	ふるさと納税について、経費はいくらか。	ふるさと納税の令和4年度の実績は、約2億2,300万円です。その内、経費が約1億1,000万円で、約49%でありました。残額の約1億1,300万円は基金として積み立てております。基金を活用した事業は主に、保健・医療・福祉の増進に関する事業、防災・防犯に関する事業、教育・文化・スポーツ活動の充実に関する事業、あやめまつり応援事業となっております。
11	牛堀地区が過疎地域に指定されて2年程度経っているが、このことを逆手にとって、検討委員会を立ち上げるなどして毎年会議を開くなどしてはどうか。	5年程前から区長の皆様との話し合いはスタートしており、今年の3月に跡地利用の検討懇談会を立ち上げました。今年度については、皆様からいただいたご意見をもとに方向性をまとめさせていただき、「牛堀地区跡地利用基本計画策定業務委託」の構想を立てさせていただきました。策定作業の中で懇談会の会員の皆様のご意見をいただきながら計画を策定していき、具現化をしていくのが来年度以降となります。

12	タクシー券を配ってもらっているが、使い勝手が悪い。車の運転ができないので、病院に行くのにバスを利用すると50分もかかる。タクシー券を利用するには自宅から利用しないといけない。帰ってくる時には、鹿嶋のタクシー会社は使えない。鹿行広域で使用できるタクシー券にしてもらいたい。もしくは行方市が行っているような、ワンコインで乗れる送迎サービスを実施してもらいたい。	行方市のサービスはデマンドタクシーと考えられます。公共交通協議会にて検討していますが、デマンドタクシーを運行させるとなれば、タクシー券を廃止し、巡回バスは減便となることが考えられます。何が一番利用者にとって良いのか、協議会において利用者の方々の声を聞きながら方策を検討しております。
13	産官学の取組みのニュースを聞かなくなったが、大生原公民館近くに、茨城大学の研究施設もあり、本県には世界でも有数の研究都市であるつくば市が所在しているため、さらなる取組みを進めていきたい。	連携のレベルにもよりますが、本市でも総合計画を策定する際など、筑波大学の教授や生徒の方の協力をいただいております。また、潮来高校には高大連携事業としてまちづくりシンポジウムなどにご協力いただき、本市もまちづくりに対して意見をいただいているところです。茨城大学の研究施設とも、以前のテレビ番組（水を抜く大作戦）収録時に、相談や交流を深めております。これからもさらなる連携を深めて参ります。
14	大生原小学校を文化財の保管及び展示会場として利活用するのはいかがか。	大生原小学校の利活用のについては、地元区長様等をメンバーとした検討会により公募で事業者を決めて利活用を図ることとしております。現在、優先して交渉する事業者が決まり、本年度中にはどのような事業を進めるのか、回答していただく予定です。事業計画を提出いただき、その内容に沿って事業を進めていくのか、計画の提出まで至らなければ、無効となり、再度、募集をかけ、検討を行うこととなります。
15	大学など、学校の誘致は考えていないのか。	小学校等の跡地には学校関連施設等も含め、幅広い観点から誘致を推進しております。
16	東関東自動車道の延伸工事が進んでいる。そのような中、企業誘致は重要であると考え。市の考えを聞きたい。	東関東自動車道は、令和7～8年度に開通する見込みです。昨年、旧牛堀町区域を対象に産業拠点開発検討調査を実施し、開発可能性のある候補地を抽出するとともに、諸条件の比較検討を行いました。そのことを踏まえ、今年度は、産業用地基本計画の策定を完了させます。なるべく早く企業誘致を進めて参ります。また、今年度より新たに企業立地戦略室を設置しており、土地規制の緩和などインター周辺の開発ができるように調査・検討を進めております。
17	高速道路が3年後に開通することは以前から分かっていたと思うので、工業団地の造成について間に合わないのは取り組みが遅いのではないか。	牛堀地区での工業団地造成について、高速道路開通までに造成は間に合いません。最短で5年以内に造成が完了する計画です。企業誘致にあたり、現在は様々な方策を検討させていただいております。
18	企業誘致事業に予算がついたが、潮来インター周辺には農地が多く、造成にかなりの費用がかかると考えられる。牛堀の工業団地を拡充し、最先端企業を誘致する考えがあるか伺う。	現在、牛堀の工業団地を拡充する考えは持っておりません。別の場所に同規模程度の工業団地を造成していく考えです。
19	防災について、先日の台風2号の影響で警報が出た際に、延方千拓の前川地区では、水路の水が越水した。市で対応はしなかったのか。	消防団の皆様にもご協力をいただきながら、災害対策本部を立ち上げ、対応に当たっております。消防団の巡回報告から当該箇所の米島近辺の道路の冠水や前川の越水については把握しており、排水機場を全力で稼働して対応しておりました。また、大洲の水門は午前5時頃に閉じました。国土交通省のポンプ車も手配いただき、ポンプ排水していましたが、床上・床下浸水の被害はなかったものの、道路の低いところは冠水しておりました。現在、国に対してポンプ車の配備など要望内容をまとめております。ご指摘の箇所は、地盤の低いところであるため、冠水など影響が出やすくなっています。まずは、人的被害が無いよう対策を講じて参ります。
20	台風2号の影響であやめ園が水没した原因と対策について伺う。	水没原因と対策について、当時は対策本部を設置し、消防団の皆様にご協力をいただきながら対応に当たりました。国土交通省からポンプ車を2台配置していただき、消防団でも排水対応いただきましたが、前川があやめ園に越水しました。現在、ポンプ車の配備等について国や県に要請する準備をしております。
21	市民に向けたアンケートについて、回答の際は一生懸命書いている。市役所に届けたら対応が悪かった。もっと誠実に仕事をしてほしいと思う。	大変失礼いたしました。しっかりと指導して参ります。

22	大生原小学校について、利活用のため企業や学校等が入った場合、有事の際は市が優先して使用できるよう、協定を結んでいただきたい。大生原の地域住民にとって、有事の際の避難所として、大生原公民館と大生原小学校の2か所が利用できること心強い。避難所を開設する場合、大生原小学校は避難所として利用できる機能を持ち合わせているのか。	災害時、大生原小学校は市が避難所として優先的に使用できるようになっております。大生原小学校に限らず、市内の小中学校は避難所となっているため、同様に優先的に使用できます。大生原小学校にて避難所を開設した場合、最大307名を収容することができます。災害対策本部において、大生原小学校体育館を避難所として開設する旨の決定がなされたときは、開設に必要な物品や人員（職員）を配置します。
23	災害が生じた際、高齢者だけでなく、支援を必要とする若年層（無職で引きこもり、区に未加入）の方などを意識した訓練を行っていただきたい。	毎年11月に、各区の区長を防災リーダーとして地域住民を対象に地区輪番制で防災訓練を実施しております。いただいたご意見は、今後の訓練実施の際の参考とさせていただきます、研究させていただきます。
24	雑草の処理など、十分な管理がされていない空き家が増えている。空き家管理システムを導入することのどこか、そのような不安を払拭できるようなシステムなのか、どのような対策を講じていくのか伺う。	導入を予定している空き家の管理システムは、空き家の所在地、管理の状況等を入力しておき、指導等の対応経過を入力できるシステムとする予定です。現在、空き家の対策は、まず総務課に相談いただければ、職員が現地を確認し、持ち主を調べ、所有者に必要な対応をとるように指導しております。対応が必要な空き家があれば、総務課までご連絡ください。
25	潮来市・行方市において、救急医療病院がない中で、緊急医療体制について、どのように考えているか伺いたい。	救急医療体制の課題は大変重要なことと考えております。茨城県は医師数が全国の中でも低い順位であり、その中でも鹿行地域の医師数の不足は顕著であり、救急搬送に時間がかかり、入院や手術が必要となる重症者を受け入れる医療機関が十分担えていない状況です。潮来市には「病院」と名の付く医療機関が無く、医療過疎地域となっております。県全体で医師の確保ができていない中ではありますが、鹿行地域に1人でも多くの医師を派遣いただけるよう努めます。また、病院誘致を推進しておりますが、新型コロナ流行等による物価の上昇により、開設時期については明示できない状況となっております。国や県、鹿行他市の首長の方々と協力して病院の誘致を図って参ります。
26	ランドセルの配布はありがたいが、タブレットやA4サイズへの対応など、鹿嶋市のように対応していくべきではないか。	毎年、子育て支援課において保護者の方々へのアンケート調査を行い、調査結果からほぼ毎年、内容の更新をして、タブレットやA4サイズへの対応、ブザー取り付け金具位置の対応等を行っております。今後も子どもたちが使いやすいように改良して参ります。
27	除草剤がいつどこでまかれたかが分からず、集積所等で草等に触ってしまうと湿疹等になってしまう。このことについて、市で何か検討してもらえないか（まいたらお知らせを書いておく等）。	市の管理区域で除草剤の散布は実施しておりません。散布するような事があれば市ホームページや広報等による周知や注意看板を設置いたします。なお、ごみ集積所の管理は使用者によって行っており、集積所等の除草剤使用にお困りの際は、各自治会等でご相談ください。
28	潮来の観光といえば「あやめ」だが、ここ数年のあやめまつりは花が貧相で、佐原のあやめパークと見比べたときに見劣りして残念との話もある。水路のまちや津軽河岸の発展に力を入れる前に、「あやめ」に力を入れた方が良いのではないか。	この3年間、花の生育状況はよくありません。茨城県農業改良普及センターに何度も相談し、土壌の改良など方策を実施してまいりました。管理に関わる費用は増やして常時4人態勢で除草作業や栽培の管理を行っておりますが、残念ながら結果に結びついておりません。来年に向けて早い段階から土壌改良など取り組んで参ります。
29	あやめ園内の雑草への対応について伺いたい。	雑草については、4名の会計年度任用職員の方が管理しております。この方々は、草刈等もしますが主にあやめ自体の管理をしております。今年にあやめまつりが終わりましたので、一部植え替えを終えて、草刈等を行い、秋の施肥に備えております。また、雑草が繁茂する時期は、民間事業者等に委託し、作業員の増員をして雑草の除去を行っております。
30	潮来市PTA連絡協議会の会議の中で、花火大会の協賛依頼があった。教育の場で、協賛金を募ることは不適切ではないか。	現在、花火の費用は物価高騰により、例年の2.5倍程度必要となる見込みです。花火大会の実行委員会で、協賛金については各区長やPTAの方々にも、幅広く声をかけることになりました。しかし、寄付でありますので、各個人の判断におまかせをします。
31	自宅前の排水溝の水はけが悪いため、困っている。	側溝の清掃を実施しました。

32	南幹線用水路について、太陽光発電と建設中の高速道路間の道が雑草によって見通しが悪いため、車を運転しているときに釣り人等、気づきにくく危険なので、対処してもらいたい。	南幹線用水路北側の道路沿いの除草作業を行いました。なお、ガードレール外側の水路法面は潮来市土地改良区で対応となります。
33	市営住宅に入りたくても入れない。県営住宅は古い棟はエレベーターがなく、3階に高齢者が住むのは大変、バスタブがないため、浴槽を買っている人がいる。そういった市民の方々の生活に目を向けるべきではないか。	人口比で見たときに、茨城県内で潮来市は県営住宅・市営住宅が多く存在します。市営住宅については、老朽化などで危険な建物については取り壊し、直せるものについては直していきます。今回、牛堀地区の市営住宅は5戸、入居の募集を行う予定となっております。なお、バスタブについては全て入居者の方にご用意をいただくこととなっておりますので、ご理解願います。
34	雑誌で鰯川・北浦はフッ素化合物の汚染が酷いと掲載されていたが、潮来市の水道水は安全なのか。	水道水の安全性につきまして、県に確認をさせていただきました。県も有機フッ素化合物は問題としており、これまで毎年1回の検査でしたが、今年度から毎月の検査とし、水質基準値内の安全な水を供給しておりますとの事でした。また、活性炭も使用しておりますので、安心してご利用くださいとの回答をいただきました。
35	あやめ園の二丁目の水門にあるブロンズ像の作者は誰か。	日本の彫刻家で東京都台東区浅草出身、日本芸術院会員などを務めた小森邦夫先生が作者です。作品名は『渚』で、中継ポンプ場の竣工を祈念して建立されました。
36	津知小と潮来小の学校統合について、100人規模の学校では、丁寧な指導ができるため、指導効果が高いと言われており、学力が高く、いじめや不登校も少ない。津知小は100人規模が維持できるのに、なぜわざわざ統合する必要があるのか。統合すれば学力は下がり、いじめや不登校も増え、マイナスしかないのではないか。行政本位で推進していて、市民の意見などが反映されていないのではないか。	学校の適正な配置については、行政が一方向的に決める性格のものではありません。現在、様々な立場の方にご協力をいただき、統合準備委員会の中で協議をさせていただいております。協議を重ねた結果、R8年4月の統合を目指すことが決定されました。津知小の5年後の入学生は児童数が一桁になると予想されています。そうなるから統合したのでは、大生原小・徳島小の時と同じく、学区外に出る児童が増え、地域のコミュニティが崩壊してしまう恐れがあります。ぜひ協議会の議事録等をご覧いただき、民主的に決めているということを理解いただきたい。
37	ウェルビーイング（心身が健康で、社会的な居場所があること）という考え方が重要であると考えている（例えば、いじめが起こってから対処するのではなく、いじめを予防するなど）。その観点で市の考えを聞きたい。	心身の健康は第一と考えております。提言いただいたことを学校教育や市民コミュニティの分野等で、実現が可能なものについては事業化していけるよう取り組んで参ります。
38	いじめや不登校の問題が全国的に顕著になっている。その中で、潮来市の場合、他の自治体に比べて低い件数であるかと思うが、実態や対策はどうなっているか。	いじめが生じた場合、最もケアすべき点は、いじめが長期化しないことと、いじめを受けた子どもの苦痛を取り除くことです。教育委員会として、まずは指導主事による各学校教員の研修を行い、先生方に、いじめを早期に発見する力やいじめに対してどうかかわっていくかなど、対応できる術を身に付けていただいております。そのうえで、学校側で心配事や、問題が生じた場合は、学校だけでなく、教育委員会と連携して問題に対処してできる体制を整え、子どもたちがいじめから解放され、いじめがない環境を整えることが大切だと考えております。また、不登校の子どもに対しては、適応指導教室等の充実により対応して参ります。
39	初任者の療養休暇や産休者で欠員が出た際の職員の補充ができない事例が生じていると聞か、教員不足の対処方法はどのようなのか。	潮来市の場合、欠員が生じた際は、市の採用も含めて補充をしているところです。県負担の職員についてはなかなか補充が難しいため、退職した先生を含め、お声がけし、欠員がないように努めております。
40	給食センターにおいて、1年あまりで、従業員が18人中12人辞めております。その原因につきまして、会社の利益ばかり追求して、少しも従業員のことを考えていないようです。現実に給料が2割近く下がっています。従業員を大切にすることで、安全で安心なおいしい給食が提供できるのではないか。	委託契約する際の仕様書に「雇用にあたっては、出来る限り市内に住所を有する者を優先的に雇用し、現在本市の学校給食調理業務に従事している者が、調理員として従事することを希望する場合には、原則として全員を採用することとし、賃金についても委託期間中は現行の給与水準（年収）を確保するよう努めること。ただし、本人に著しい問題等がある場合にあってはこの限りではない。」と明記されています。この内容に基づき、希望調査を行い18人中5名が継続を希望せず退職し、その後、他の職種への転職等自己都合により7名が退職したため、12名退職いたしました。また、給与面においては、受託当初から時間単価のアップや経験年数等も考慮し対応しております。勤務のない夏季休業中についても給料1ヶ月分の6割を保障するなどのほか、不足分においても本人の希望により別業務を斡旋するなどしていることから、給料が2割近く減ったということはないと考えております。今後も、職場環境についても委託事業者と協議しながら進め、引き続き、雇用の安定を図って参ります。

41	大生原小学校にあった小堀先生の絵はどうなっているのか。	廃校時に、水郷潮来まちかどギャラリーの収蔵庫に収蔵させていただいて、しっかり温度と湿度の管理をして保管をしております。あやめまつりの期間中には、小堀進展としてギャラリーで展示されております。
42	大生原古墳群、非常に数が減っています。保存はどうなっているのか。	大生原古墳群の保存については、文化財保護審議委員に普段はパトロールを依頼しており、古墳・文化財の状況を確認いただいております。文化財保護の観点から、今後もしっかりと保存活動を推進して参ります。
43	大生原には思井戸や県内有数の古墳群など観光資源として活用できる地域の文化財などが多くある。市立図書館には古墳群から出土した文化財が一部展示されているようだが、通年型観光資源の一助となると思うので、図書館の展示スペースの拡大など、島崎城跡地や永山城跡地などとセットで観光資源として活用できるのではないだろうか。	島崎城や永山城などともに古墳群や文化財などを観光資源として活用するご提案につきましては、市においても検討をさせていただいているところです。この地域に人を呼び込むための1つのご提言としてしっかり検討させていただきます。
44	日の出に消防署を設置する件について、なぜ大塚野にあるにも関わらず、日の出に設置するのか。	この件については、鹿行広域において検討されております。潮来や行方や銚田の消防署は建物の老朽化により、建て替えの時期となっております。場所は確定していませんが市内全域のカバーや救急対応を考慮し、優位性の高い高速道路近辺で用地の確保ができればと考えております。建設に際しては、銚田市、行方市、潮来市の3市の合意が必要となるため、現在合意形成を図っているところです。